

令和5年度 一宮小学校 総括評価表 ②

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
進んであいさつをした り、正しい 言葉づかい で話したり する習慣が 身に付いて いない児童 がいる。	Ⅱ) 豊かな心の育成 ① 体験活動や人々との交 教育活動を展開する。 ② 組織的な生徒指導体制 の充実を図り、いじめ・ 不登校等の問題への取り 組みを強化する。 ③ あいさつの習慣や、正 しい言葉遣いの定着と、 道徳教育の充実を図る。 ④ ボランティア活動や異 学年活動などを通して、 互いを支え、励まし合い、 互いを大切に作る仲間づ くりを進める特別活動の 充実。	<p>評価指標</p> <p>①-1 保護者アンケートによる「体験や交流学習の取り入れ」の達成率80%以上 ①-2 体験学習や交流活動を毎学期実施する。</p> <hr/> <p>②-1 保護者アンケートによる「相談体制」の達成率80%以上 ②-2 児童・保護者アンケートによる「いじめ・不登校対応」の達成率80%以上</p> <hr/> <p>③-1 児童・保護者アンケートによる「あいさつ、正しい言葉づかい」の達成率80%以上 ③-2 帰りの会で、めあての達成率80%以上</p> <hr/> <p>④ 異学年活動を年間3回以上、わくわくタイム月1回以上、ボランティア活動を毎週行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 体験学習や交流学習の取り入れの達成率91%で指標を上回った。 ①-2 各学年ともに発達段階に応じて、体験や交流学習を行うことができた。</p> <hr/> <p>②-1 相談体制については、達成率80%で指標を達成することができた。 ②-2 いじめ・不登校対応の達成率は、児童94%、保護者86%と、児童・保護者ともに指標を上回った。</p> <hr/> <p>③-1 児童は83%、保護者は86%となり、児童も保護者も指標を上回った。 ③-2 めあてによって達成率に差があり、全体的に見ると指標の達成は十分ではない。</p> <hr/> <p>④ わくわくタイムは定期的実施できていた。全校ボランティアは天候によって変更することがあったが、月1回程度は実施することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>重点目標①については、発達段階に応じた体験活動や交流学習を実施することができた。今後は、体験や交流学習をさらに取り入れていきたい。</p> <p>重点目標②については、指標を上回ったが、今後とも児童・保護者の信頼が得られるよう、より深く児童一人ひとりを見つめ、指導にあたるとともに、保護者との連携強化に努めたい。</p> <p>重点目標③については、今後も引き続き、あいさつや場に応じた言葉づかいの指導に力を入れていきたい。</p> <p>重点目標④については、今後も継続して活動し、思いやりの心を育ていきたい。</p>	<p>体験学習や交流学習に対する工夫が感じられる。先生方の児童理解は、すばらしいものがあると感じる。子どもの落ち着いた様子や笑顔を見せ、先生方の取り組みができていたと感じた。</p> <p>① 体験学習や異学年交流学習については、十分できていた。修学旅行や宿泊学習で今後も体験学習や交流学習を進めていきたい。</p> <p>② 児童理解をさらに深め、共有すると共に、相談体制を充実させていきたい。</p> <p>③ 気持ちのよいあいさつや言葉づかいができるように、教職員が進んであいさつや場に応じた言葉づかいの指導を行いながら、家庭との協力関係を構築していきたい。また、地域との連携を模索していきたい。</p> <p>④ おおむね充実した活動ができている。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じためあてをもたせながら、児童に思いやりの心を育てていきたい。</p> <p>⑤ 縦割り班活動で、心の育成ができている。また、責任をもって仕事をする中で、自信ももてるようになっていく。今後も取り組んでほしい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 地域の自然や歴史に関する体験活動や、縦割り班活動、地域の保育所、近隣小、中学校との交流の充実を図る。 ①-2 教科書や読み物資料を有効に活用し、道徳教育の充実をめぐる。</p> <hr/> <p>②-1 児童一人ひとりの実態把握に努め、全校的な共通理解や指導体制の構築を進める。 ②-2 保護者への連絡を密にし、教育相談や教育調査等を重視した体制づくりを進める。</p> <hr/> <p>③-1 あいさつを教職員が進んで行い、気持ちのよいあいさつや返事ができる学校づくりを進める。必ずあいさつをする場所を決めて、実践できるように進める。「教室に入るときには1回あいさつする」というようなルールを作り、月1回程度ふりかえりの場を設け、児童自ら進んであいさつができる学校作りを進める。 ③-2 学校生活全体を通して、丁寧な言葉づかいを指導する。 ③-3 家庭や地域と連携し、あいさつや正しい言葉づかいをしようとする意欲を高める。</p> <hr/> <p>④ 異学年交流やボランティア活動等を年3回以上実施し、よりよい人間関係を築き思いやりの心を育てる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 自然や地域・歴史に関する体験活動を進めてきた。オリエンテーリングや町探検等の活動や、保育所や近隣小学校との交流を図った。 ①-2 教科書だけでなく読み物資料や新聞を活用し、児童の実態に応じて、ロールプレイや教員が作成した資料等を取り入れ道徳教育の充実をめぐる。</p> <hr/> <p>② 学校生活アンケートの結果を分析し、児童の人間関係や生徒指導上の諸問題について全校的に共通理解を図り、全教職員で指導にあたってきた。また、定期的に生徒指導委員会・校内委員会を開催し、情報交換に努めた。直接または電話や連絡帳を通して、保護者への連絡体制の構築に努めてきた。</p> <hr/> <p>③ 教職員が率先してあいさつや丁寧な言葉づかいを行い、継続してあいさつの大切さや場に応じた言葉づかいを指導してきた。</p> <hr/> <p>④ 校内での活動を効果的に取り入れて、わくわくタイム、縦割り班の活動を通して、思いやりの心を育ててきた。</p>		

「総合評価」における「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった